

(2) 予察情報－2 特殊報

令和2年10月30日

令和2年度 病虫害発生予察 特殊報 第1号

病虫害名： ヨコバイ科の一種 *Eupteryx decemnotata* Rey

対 象： ローズマリー

1. 病虫害情報の内容

Eupteryx decemnotata Rey の発生と被害を、東京都区部及び多摩地域で初めて確認した。

2. 発生経過

- (1) 令和2年5月に東京都区部で鉢植えのローズマリーに害虫が発生し、葉が変色しているとの情報提供があった。現地調査を行ったところ、採取した葉からヨコバイ類の成虫が確認された。また、多摩地域のローズマリーにおいても、類似したヨコバイ類が確認された。横浜植物防疫所に同定を依頼した結果、いずれも *Eupteryx decemnotata* Rey であることが判明した。
- (2) 本種は平成28年に千葉県で確認されて以降、神奈川県、大分県、大阪府、京都府、愛知県で発生が確認されている。

3. 形態

成虫は体長2.2～3.0mmで細長い。体色は黄緑色で、前翅に褐色で縁取られた斑紋が多数ある(図1)。頭部には10個の黒色斑紋がみられる(図2)。

4. 生態

国内での生態は明らかになっていない。本種はヨーロッパ原産で、ヨーロッパ各国、アメリカ合衆国、チュニジアで発生が確認されている。寄主植物は主にシソ科であり、ローズマリーの他、海外ではレモンバーム、ペパーミント、イヌハッカ、バジル、オレガノ、マジョラム、セージ、タイム等への寄生が報告されている。

5. 被害

本虫が吸汁することで葉表にかすり状の小斑点を生じる。被害が大きいと黄化、落葉する(図3、4)。

6. 防除対策

- (1) 令和2年10月29日現在、本種に対する登録農薬はない。
- (2) 寒冷紗等の被覆資材で植物を覆い、本虫の侵入を防止する。
- (3) 被害が大きい株は抜き取り、穴に埋める等適切に処分する。

7. 参考文献

特殊報:千葉県、神奈川県、大分県、京都府、愛知県
河地邦弘(2018) Nature Study 64(7):7



図1 成虫（横浜植物防疫所原図）



図2 成虫の頭部（横浜植物防疫所原図）



図3 ローズマリーの葉の被害
（かすり状の小斑点）



図4 鉢植えのローズマリーにおける被害(葉の黄化)

令和2年度 病害虫発生予察 特殊報 第2号

病害虫名： ブルーベリー類うどんこ病（仮称）

病 原： *Erysiphe elevata* (Burrill) U. Braun & S. Takam.

対 象： ブルーベリー

1. 病害虫情報の内容

ブルーベリーにおけるうどんこ病（仮称）の発生を都内で初めて確認した。

2. 発生経過

- 令和2年5月下旬～9月にかけて、都内各地の露地及び一部の施設栽培のブルーベリー圃場において、葉の表や裏面に赤褐色の斑点が多数生じ、時に、斑点上やその周囲に白色菌糸をわずかに形成する症状が確認された。
- 令和2年7月から法政大学植物医科学センターに罹病葉を送付して原因菌の確認を依頼した結果、*Erysiphe elevata*と同定された。本菌によるブルーベリー類への病害は国内外において報告がないため、令和3年3月の日本植物病理学会においてブルーベリー類うどんこ病（仮称）として提案されている。
- 本病は、令和2年に長崎県から特殊報が発表されている。

3. 病徴等（図1～3）

- 葉の表面では退緑あるいは赤褐色斑、裏面では赤～茶褐色斑を多数生じ、表または裏面に薄い白色粉状の菌叢を形成する。なお、閉子のう殻は確認されていない。
- 一部の葉では、湾曲などの奇形症状が見られる。
- 枝や果実での発病は、現段階では確認されていない。
- 発生が確認されている品種は現在のところ、ラビットアイ系のウイトウ、ウッタード、オンスロー、コロンプス、ティフブルー、フェスティバル、ブライトウェル及びホームベルである。

4. 防除対策

令和3年3月25日現在、ブルーベリーにおいて本病に適用のある薬剤はないため、発病株の罹病葉及び剪定枝などは、圃場外へ持ち出して埋却するなど適正に処分する。

5. 参考文献

- 日本植物病理学会(2021) 令和3年度日本植物病理学会大会講演要旨予稿集
- 長崎県病害虫防除所 令和2年度病害虫発生予察情報特殊報第1号



図1 葉表の赤褐色斑



図2 葉裏の赤褐色斑



図3 赤褐色斑上の薄い白色粉状の菌叢と、葉の湾曲